

サッカークラブの応援がサポーターの交友関係へもたらす影響 ～浦和レッズの女性サポーターの交友関係を例に～

小澤仁美

研究の背景と目的

毎試合、数万人単位の人々が集まるJリーグ試合においては、何らかの形でサポーター間に交流が生まれ、新たな交友関係が築かれているのではないかと考え、本研究では、浦和レッズサポーターを対象とし、「サポーターは、特定のチームを応援することによって交友関係を広げ、より応援行動に熱中していくと同時に、新たな関係を人間関係全体に付与しているのではないか」という仮説のもと、サッカークラブを応援することによって生じた交友関係と、別の機会によって生じた交友関係との量的・質的な違いについて明らかにした。

調査方法

主にヒアリング調査及びアンケート調査により調査を行った。

ヒアリング調査では、3名の浦和レッズ女性サポーターに、過去一年間における交友関係の実態（付き合いのあった友人数、各友人の年齢・性別・知り合ったきっかけ・付き合いの長さ、等）を質問し、アンケート調査では、浦和レッズの試合会場にて、サポーターの交友関係に関わる項目（レッズを通じて友人・知人が増えたと思うか、その友人・知人とどのようなことを行っているか、等）について尋ねた。

調査結果と考察

浦和レッズを好きになったことで、多くのサポーターが新たな交友関係を得ており、その新しく得た交友関係は、職場や学校などで得たものと比較しても、同性・同年代に偏らない多様な人物によって構成されているということがわかった。

また、浦和レッズを通じて得た交友関係においては、他の機会でも得た交友関係と比較し、友人の紹介によって新たな友人を獲得していくという様子がより多くみられたことから、「レッズサポーターである」という共通点が、相手への親近感を増大させ、交友関係の構築を促進しているのではないかと考えられる。

しかし、一方で、浦和レッズを通じて得た友人・知人とは、メールやインターネット上のやり取りは頻繁にあるが、レッズやサッカーの枠を出た、個人的に親密な関係にまでは至っていないケースが多いこともわかった。

このように、拘束力がなく、脆弱性を持つという一方で、他の機会では得られないような多様な友人を得られるという、サッカーの応援を通じて得られた交友関係の存在は、友人とともに過ごすや余暇を活動的に使う機会を増やし、個人の生活に精神的な豊かさをもたらすものであると考えられる。試合の観戦で得られる喜びや楽しみに加え、こうした効果が得られるということは、サポーターがクラブチームの応援により熱中する一因となっているのではないだろうか。